

景観に配慮した砂防施設の紹介（今久保谷堰堤による地域振興支援）

四国山地砂防事務所

建設監督官 内山 俊浩

1. はじめに

吉野川水系祖谷川流域は、源平合戦に敗れた平家落人の里として有名であり、数々の名所旧跡が残されています。中でも「祖谷のかずら橋」は、年間60万人の観光客が訪れる徳島県屈指の観光名所であり、かずら橋周辺における景観の保全は、地域の主要産業を守る上で重要な配慮事項となっています。

本稿では、観光振興を支援する地域との連携事業として実施中である今久保谷堰堤について紹介します。



2. 1 今久保谷堰堤の概要

祖谷川は、西日本第二の高峰・剣山（1955m）に源を発する吉野川最大の支川で、中央構造線の南側に位置しています。流域は、三波川変成作用を強く受け重荒廃地域になっており、地滑りや大規模崩壊の危険箇所が数多く分布しています。

左支川の今久保谷においても、平成11年6月の豪雨により上流域で山腹が崩壊し、村道が埋没するなどの被害が発生しました。さらに、渓床部には巨大転石や不安定土砂が堆積しており、新たな土砂災害の危険性が高いこと、直轄地滑り防止区域に指定されていることなどから土石流・流木止め対策及び山脚固定による流出土砂の抑制のために砂防堰堤を計画したものです。

〔計画諸元〕

ダム形式：重力式

対象流域：1.74 km²

対象流量：90 m³/s

本堤ダム高：12.0 m

本堤堤長：75.0 m

また、今久保谷堰堤は、観光名所「かずら橋」の下流約50mに位置し、保全対象として県道山城東祖谷山線の善徳バイパス、及び西祖谷山村による地域活性化施設が建設中であり、これらの施設を保全し、且つ、かずら橋周辺の景観と一体となった整備が求められました。



平成11年6月豪雨により発生した新規崩壊



「祖谷のかずら橋」

2.2 地域活性化事業の概要

日本三大奇橋のひとつに数えられ、国の重要文化財である「かずら橋」周辺は、年間60万人が訪れるにも関わらず「秘境」の名のとおり道路事情が劣悪で、また慢性的な駐車場不足となっています。

このため、平成12年度より徳島県において県道バイパス事業が着手され、また平成13年度より西祖谷山村において大型駐車場・ふれあい交流広場整備事業を実施しています。これらの事業によって観光客の受け入れ態勢の整備を図るとともに、イベントの開催、特産品の販売等を通じた地域交流及び地域活性化の促進を目指しています。



今久保地区事業の全景

2.3 今久保谷堰堤における景観配慮工法

今久保谷堰堤は、「かずら橋」観光客の周遊コースにもなることから、周辺景観と調和し、親しみやすい空間の創出を設計コンセプトとしました。このためには、人工構造物である砂防堰堤の景観を改善することと堰堤周辺までのアクセス性を向上させる必要があり、以下の工法を採用しました。

●巨大転石の保存

巨大転石は、土砂災害に対する脅威となりますが、転石による渓流地形は「かずら橋」周辺における自然景観の一役を担うものでもあります。このため、巨大転石を砂防施設の一部に取り込むことで、災害を防止するとともに撤去を回避し、「おおいわ」を保存することとしました。

●人工岩パネルによる堰堤コンクリートの修景

今久保谷堰堤のコンクリート修景は、人工岩パネルによる残存型枠工法を採用しました。この工法は、現地の岩質とのマッチングを図るため、現場付近の自然岩から型どりを行った人工岩パネルを製作します。製作された数十種類の人工岩パネルを模型に従い配置接合した後、造形技師によるエージングによってリアルな表情の擬岩を創出するものです。

●散策路等の整備

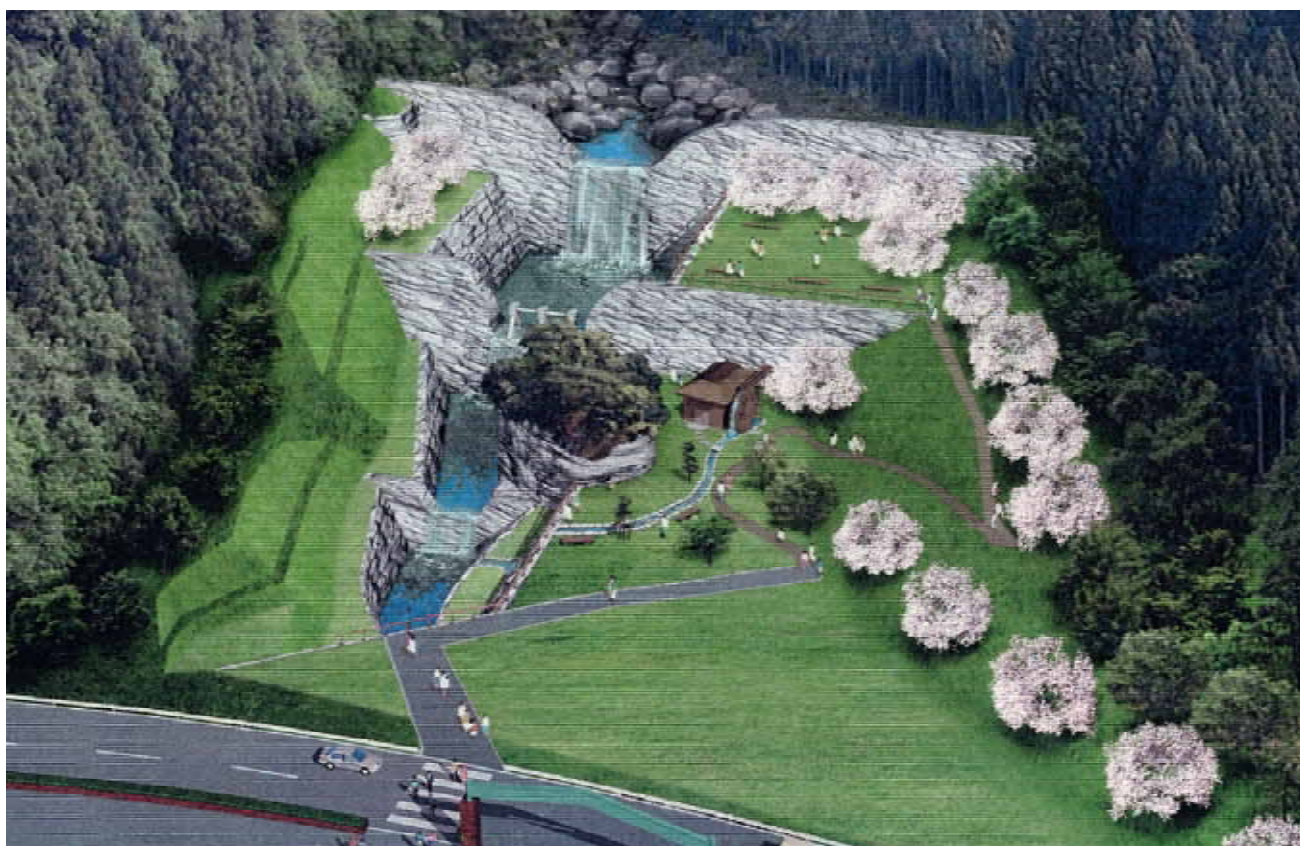
県道バイパスに隣接し、多くの観光客が間近で接することの出来る砂防施設として、散策路・東屋を整備し、植樹も行います。



巨大転石



人工岩パネル



今久保堰堤完成予想図

3. おわりに

平成16年度の相次ぐ台風来襲によって四国管内でも各地で土砂災害が発生しており、尊い命や貴重な財産が失われています。今久保地区においても、山腹崩壊による村道埋没やライフラインの途絶等の災害が発生しており、今久保谷堰堤工事でも法面崩壊や流出土砂による工事区域の埋没等、手戻りを余儀なくされています。

今後も地域の安全・安心のため一日も早い完成に向け鋭意施工を進めてまいります。工事作業員の安全管理にも十分配慮していきます。

最後に、平成16年に土砂災害によって亡くなった方々のご冥福を祈るとともに、本年が「土砂災害による被災者ゼロの年」であることを祈願して本稿を終わります。